

# 高知大学医学部医学科同窓会会報

# やまもも

高知大学医学部医学科同窓会  
会長 西山 謹吾  
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮  
TEL:088(866)0034  
FAX:088(866)0065  
[dosokaij@kochi-u.ac.jp](mailto:dosokaij@kochi-u.ac.jp)  
<http://www.kochi-ms.jp>

## 第 39 号

### 高知大学医学部医学科同窓会総会・同窓会懇親会などの報告

本年度の同窓会総会は、7月27日(土)17:30よりOMO 7高知で開催いたしました。議題は、最初に会長選挙を行い会長職を長きにわたりご尽力いただいた廣瀬 大祐先生は退任となり、新会長として西山 謹吾先生(1期生)が選任されました。

なお、廣瀬先生は引き続き副会長としてご協力いただくこととなりました。

続いて、令和5年度会計決算報告を行い、監査報告では岡本 啓一先生(1期生)、前田 明彦先生(6期生)、澁谷 祐一先生(6期生)の監査役より事業報告及び収支簿等の運営状況は正確に示している。また、不正行為、会則に違反する事実は認められない報告後、令和6年度事業計画や会計予算(案)の審議を行い、意義なく承認となりました。続いて、特別講演会では、岡本 啓一先生「HPV ワクチンの重要性」、井上 啓史医学部長「恩師からの教えや業績など」、石井 洋介先生「コーチレジや日本うんこ学会創設など」3人の講師には貴重なお話をいただき、その後、懇親会となりました。

高知大学医学部は、前身である高知医科大学として高知県民の強い要望と無医大県解消を目指す国の構想の一環として、昭和53年(1978年)に開学し1期生が入学いたしました。その後、旧高知大学との統合を経て、令和10年(2028年)に開学50周年を迎えます。本年10月には西山同窓会会長も加わり高知大学医学部・旧高知医科大学開学50周年記念事業ワーキングを立ち上げ記念事業に向け検討を重ねております。

今後のことですが、令和7年度同窓会総会は8月2日(土)にOMO 7高知3Fで開催を予定しております。卒期の制限は設けず自由参加としておりますので、旧友やクラブ単位、診療科単位でも結構ですので多数のご参加をお待ちしております。なお、詳しい内容につきましては、6月期発行の会報40号で改めて周知させていただきますのでよろしくお願いいたします。

高知大学医学部同窓会ホームページで過去の「やまもも」や「おこうだより」もご覧になれますので、是非ご覧ください。

## ○令和5年度会計収支決算報告(令和5年8月1日～令和6年7月末日)

科目	受入見込額	受入済額	摘要
会費収入	5,750,000	5,850,000	令和5年度新入生107名/115名、学部生7名・卒業生4名(内1名は40,000円、1名は10,000円)
寄付受入	0	33,000	20期生同窓会懇談会において残額を寄付
同窓会懇親会費	0	110,000	7名分
保険事務代行費	330,000	347,997	
利息	30	31	
今年度収入合計	6,080,030	6,341,028	
定期預金より受入	5,451,423	7,001,456	証書番号0000011のところ証書番号3062503を解約(解約利息含)
前年度からの繰越	7,123,778	7,123,778	
総計	18,655,231	20,466,262	

## 【支出の部】

科目	予算額	決算額	摘要	
総会実施経費	5,500,000	4,521,210	総会会場借上経費など(84,510円)、大同窓会総会懇親会経費など(4,436,700円)	
通信運搬費	600,000	565,266	会報36号、37号送料など	
印刷製本費	1,200,000	1,499,135	会報(749,100円)及びおこうだよりデザイン料・印刷製本費(696,000円)など	
事務費・事務用品費	90,000	77,923	電話料金、FAX料金など	
人件費	960,000	960,000	事務職員給与80,000円×12ヶ月	
ホームページ更新料	40,000	30,696	ドメイン・サーバー年間対応費用、HP更新経費	
旅費	36,000	66,000	事務職員の駐車料金、岡山支部懇談会出席旅費	
支部助成費	100,000	100,000	岡山支部会助成金	
研究会主催支援経費	500,000	180,000	KMS-RM100,000円、医学教育分野別評価50,000円、リレー・フォー・ライフへ支援30,000円	
慶弔費	100,000	50,000	井上医学部長	
会議費	60,000	57,644	理事会開催経費及び活動費	
教育設備の更新費	1,000,000	1,000,000	医学部教育設備に寄付(5/5年目)	
研修医の支援	194,000	80,690	モーニングセミナー	
学生支援経費	国家試験対策経費	1,100,000	1,098,500	国家試験対応400,000円、卒業試験対応698,500円
	幡多地域医療道場に伴う支援	50,000	50,000	
	SEED学生への支援	100,000	100,000	
	白衣授与式への支援	1,000,000	896,170	
	よさこい祭り(醫)への支援	50,000	0	参加無し
	南風祭への支援	100,000	100,000	
学生支援経費合計	2,400,000	2,244,670		
支出の部(小計)	12,780,000	11,433,234		
予備費	1,885,231	300,000	高知県医師会研修医交流会懇談会へ支援	
支出の部(合計)	14,665,231	11,733,234		
運用資金次年度への繰越金額	4,000,000	8,733,028		
計	18,665,231	20,466,262		

## ○令和5年度事業報告

(総会の開催)

- 令和5年度同窓会総会の開催 ザクラウンパレス新阪急高知 令和5年8月5日
- 高知大学医学部医学科同窓会総会懇親会並びに高知大学と高知医科大学の統合20周年記念式典 令和5年11月25日

(理事会の開催)

- 第1回理事会の開催 令和5年9月20日、第2回理事会の開催 令和6年1月31日
- 第3回理事会の開催 令和6年4月17日、第4回理事会の開催 令和6年6月19日

(主な取り組み)

- 高知大学創立75周年記念事業委員会 随時開催、医学部振興基金運営委員会 令和6年5月15日開催
- 会報「やまもも」年2回発行並びにおこうだより(21号)の送付、国家試験対策経費の支援
- 卒業生各位に記念品(USB)の授与、白衣授与式で4年生各位に白衣を贈呈
- 研究会主催の事業経費を支援、医学部教育設備費への支援(5/5年目)、医師会研修医交流懇談会へ支援
- 研修医モーニングセミナーへの支援、既卒生国家試験対策の支援 など

## 《会長挨拶》



## 同窓会会長に就任して

高知大学医学部危機管理医療学講座

同窓会会長 西山 謹吾（1期卒）

この度廣瀬大祐前会長の後を受け、同窓会長に就任いたしました西山謹吾です。皆さんよろしくお願いたします。

私は高知医科大学 1 期生で卒業後は高知医科大学の大学院に進み、その後は主に高知赤十字病院で 25 年間お世話になり、2019 年に大学に戻ってきました。大学の周辺は入学当時とはあまり変わりませんが、大学の診療科も細分化され医療の高度化とともに手狭になってきています。

来年 2025 年 2 月には免震の新病棟ができ、入院病棟二つは免震構造になります。医療の進化はすさまじく、日本で初めてコンピューターシステムで検査のオーダーリングシステムを構築した IMIS も今ではどこの病院でも電子カルテです。その進化に比し医療従事者の忙しさは逆に様々な書類が増加し一向に減りません。医師の仕事はタスクシフトを行って、多職種で医療を行う時代になりました。新病棟の次は外来棟の改築が始まります。このように医療は変わっていても、いまだに変わらないのは医学部体育館です。コロナ禍前までは、体育館では卒業式後の学位記授与式、解剖体慰霊祭を行っておりましたが、現在はやむを得ず縮小し実施しておりますが、是非ともこれらの行事を行う施設「講堂」が必要です。

2028 年には高知医科大学開学 50 周年を迎えます。これを機に卒業生一丸となり岡豊キャンパスに 50 周年記念会館を建設したらいかがでしょうか。卒業生は今までで 4000 人は超えます。新設医大と言われたのも昔の話です。高知県にある唯一の医学部としてプライドを持ってこれぞ記念館と言われるようなものを残し、在学生にも役に立ってもらいたいと思っています。

今後も同窓会の皆様には卒業生同士のつながりを大切にして、在校生へのご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

## 《前会長挨拶》



## 同窓会会長を退任して

高知大学医学部医学科同窓会

副会長 廣瀬 大祐（平成元年卒業）

20年余りの長きにわたった、高知大学医学部同窓会会長の任を西山謹吾先生にお願いできることになりました。

長きに渡り、支えてくれた事務職 土井さん、明神さんには大変感謝しております。副会長の山田・大黒両先生、私より長きに渡り監事を務めていただいている岡本先生、その他大勢の理事の方にも助けられて続けられたと思っています。文面を借りて謝辞を述べさせていただきたいと思います。

前任の会長が2年の海外留学間の間、会長を引き受けたのが1999年頃でした。前会長の帰国後、一会員に戻りました。しかし2年後、今度は会長が関東に転居されたため、会長再任の運びとなりました。

その直後に起こったことが2003年の高知医科大学と高知大学の統合です。統合後の新学長の肝入りで同窓会連合会が組織されました。各同窓会はそれぞれ活動を行いながら、年2回の大学と連合会の懇談会、ホームカミングデイの実施など対外的な仕事が増えました。他の同窓会会長は会社の役員や県庁・市役所のOB、元大学教授など県内のお歴々の方々ばかりで40歳目の前の若輩には大変荷が重い仕事でした。その統合20周年の式典を昨年2023年に盛大に開催できたことは大変嬉しく思っています。

さて、現在まで医学部同窓会活動の原資は各人の永年会費5万円です。現在は入学時に会費をいただいております毎年決まった収入が確保されています。また医師賠償責任保険を同窓会で団体契約しているため、事務手数料として若干の収入もいただける仕組みを整えてまいりました。その収入からの活動として一番大きなものは白衣授与式です。臨床実習進学時に学生全員に白衣の授与を行なっています。また学生支援として南風祭やよさこい祭り参加（近年は不参加のようです）への補助、指導教官との懇談補助などを、国試浪人の方には模擬試験費用負担を行なっています。医師のなられた方にはKMSリサーチミーティングへの同窓会賞、学会主催に対する補助など行なってきました。入学式、卒業式への参加は仕事の都合でできていませんでしたが、今後はまた変わってくると思います。

我々の母体である医学部は、高知医科大学として産声をあげ高知大学医学部となりましたが、まもなく創立50年を迎えます。新会長のもと大学とも連携をとりながら取り組んでいかなければならない大きな事業です。副会長としてこれからも携わっていきますので、皆様のご協力よろしくお願い申し上げます。

## 《リレー随筆》



## 国際的なマインドを持って地域に貢献する医師の育成 ～ 37年を振り返って～

高知大学医学部医療学講座医療管理学分野

教授 小林 道也（第1期卒）

### 1) 入学

1期生として高知医科大学に入学し、関連病院出向、留学を除く約37年9か月を高知医科大学、高知大学医学部でお世話になりました。

昭和53年（1978年）入試は国立大学を一期校と二期校に分けた最後の年でした。私は岡山の出身で、目標の岡山大学医学部入学がかなわず、特定の二期校の受験準備を全くしていなかったため新設校でだれも入試対策をしていないはずということが本学を選んだ理由です。志願者は出願時に27～28倍であったような記憶があります。試験も発表も朝倉キャンパスで行われ、発表当日初めて岡豊の高知医大を訪れると小さな教養講義棟と実習棟があるだけで、学内の道路は未舗装、建物の入り口に板が渡された状況でした。これはかなりショックでこんな田舎の土や泥の中にある大学はやめて浪人しようと思いましたが、両親の説得があり最終的には入学しました。



一期生 澤井英明先生提供

### 2) 外科医として

当時は土曜日の午前中にも授業があり6年間はまさに高校生活の延長で、6年間で4時間ほど授業を欠席しただけでした。卒業後には岡山に帰ろうか悩みましたが、結局は当時の第一外科に入局し、2000年頃から内視鏡外科手術に注力して本学での消化管がんの鏡視下手術を確立したと自負しています。また、整容性にもこだわり単孔式手術で胆のう摘出術や大腸がん手術も行いました。ロボット支援手術に興味を持ち、2003年から海外の学会や施設で見学、ドライラボで研鑽

しました。「手術支援ロボット（ダヴィンチ）使用手術に関する審査会」の委員長として安全な導入に努め、私自身はロボット支援直腸がん手術の1例目を2014年12月に行い、その後胃がん手術にも導入しました。さらに大学の使命として「減量・代謝改善手術」にも取り組み、保険診療ができるまでになりました。

### 3) がん治療センター

私の外科医としての歩みの中に、いくつか新しい組織の運営が加わりました。

一つ目は「がん治療センター」です。高知大学附属病院は2006年8月24日に都道府県がん診療連携拠点病院に国立大学法人で初めて他の15施設とともに指定されました。これは「がん治療センター」などの設置が求められておりそのセンター長を拝命しました。「がん治療センター」がどこにあって、スタッフは誰か尋ねましたが、「どこにもない」「スタッフはとりあえず君だけ」と言われ、バーチャルな組織の印象はぬぐえませんでした。それから約18年間、徐々に整備を続け、附属病院の下にある「がん診療連携協議会」に1) がん登録部会、2) 情報提供・相談支援部会、3) 緩和ケア部会、4) がん生殖医療部会、5) がん薬物療法部会、6) 放射線治療部会の6部会を作り、本院を中心に地域の先生方と高知県のがん医療の質の向上に努めてきました。

### 4) 低侵襲治療教育・トレーニングセンター

Minimally Invasive Surgery Education and Training Center (MIS-ETC) と名付け、2009年5月に研究棟と大学院棟の間に新設され、センター長を兼務しました。当初は縫合結紮トレーニングボックス5台とLap Mentor™ 1台のみでした。2012年5月にレジデントハウスが建設され、1階の西半分にMIS-ETCが移転し、シミュレーション機器をさらに充実させてLap Mentor™ 2台、ロボット支援手術シミュレーター2台、カテーテルインターベンションのシミュレーター、消化器・呼吸器内視鏡シミュレーター、婦人科エコー、分娩シミュレーターなど全国に誇れる施設になりました。また約40人のカンファレンスができるスペースを設け講演会などに活用しています。レジデントハウスは高知県の援助で建設され、MIS-ETCには酸素などの配管も整備し大規模災害時の医療拠点となる機能も持っています。

### 5) 学生教育

学部学生には長年外科学の講義を行い、医療学講座医療管理学分野では医療安全学、臨床腫瘍学の講義を開講しました。

大学院の修士課程でも講義を担当し、博士課程では岡山大学が主幹で文科省の事業である中国四国がんプロコンソーシアムにおいて高知大学の責任者を務め、本学で臨床腫瘍学を開講しています。

### 6) 行政の仕事

高知県のがん対策推進協議会、在宅緩和ケア推進連絡協議会（現在は終了）、がん教育推進協議

会で長年会長を務め、健康診査管理指導協議会の委員として検診事業の精度管理にも関与し、県のがん施策に深く関わってきました。2007年に始まった全県的な市民公開講座の企画・運営に携わり、2020年からはテレビ番組として県民の皆様のがんに関する様々な情報を提供しています。また、早くから若年者に対するがん教育を始めました。若年者のがん教育は2020年度から順次学習指導要領に記載されましたが、学校側の受け入れ準備が十分でなく2018年に高知県がん教育推進協議会ができてやっと県全体の取り組みが始まりました。私たちは年間に10～12回出前授業に出かけています。外部講師の活用は文科省も推進しており、2024年度に高知県が全国で第7位の実績を上げ高く評価されています。

また国保審査員を長年務めたことで2021年に厚生労働大臣表彰をいただきました。

## 7) 学会活動

慶応大学の北島政樹教授や九州大学の前原喜彦教授などの指導者に恵まれ、日本外科学会では5つの委員会、日本内視鏡外科学会をはじめ複数の学会で9つの委員会で委員を務めさせていただきました。

全国学会を開催する機会は少なかったのですが2012年に第44回日本臨床分子形態学会を主催し同学会の安澄賞を受賞しました。

2020年3月にホノルルで開催予定だったThe 36th Pan-Pacific Surgical Association -Japan Chapterは新型コロナウイルス感染症の蔓延で学会の4日前に急遽中止をせざるを得ませんでした。再度会長を仰せつかり2023年8月に無事ホノルルで開催することができました。

## 8) 留学と国際交流

大学院3年の冬からハワイ大学医学部病理学教室に1年2か月間留学させていただきました。同じ岡山県のご出身でKuakini病院病理部の林卓司先生にお世話になりました。留学は博士論文を仕上げただけでなくその後の国際的なマインドの醸成に大きく影響を及ぼしました。2007年4月から医学部の国際連携推進委員会委員長を拝命し、2010年2月11日にはBill Clinton 米国元大統領のアドバイザーも務めたDr. Ruth Ono（父の時代から交流あり）に大変お世話になり締結が困難なハワイ大学医学部との協定が実現しました。また、父が台湾との交流を推進していたことから私も両国の民間交流団体の副会長を務めており2012年6月に台湾大学医学部との協定締結が実現しました。台湾大学は日本の旧帝大で世界大学ランキングでも上位に位置しています。この2つの大学とも現在に至るまで双方向の活発な学生交流を継続しています。

菅沼成文教授を中心にブラジルの南マツト



グロッセ大学で 2016 年 8 月に消化器内視鏡教育を開始しました。その後も現地で講演と腹腔鏡手術教育の準備を続け、2018 年 8 月に S 状結腸がんと直腸がんの 2 例の腹腔鏡下高位前方切除術を施行し現地の外科医の教育を行いました。翌年 3 月にブラジルの外科医 3 名が腹腔鏡手術の手技の習得のため本学を訪れた際には厚生労働大臣名で「外国医師臨床習練許可証」を発行していただき手術にも参加してもらいました。

また、2018 年 9 月にウズベキスタン共和国の国立タシケント歯科大学に招かれ大学や病院で講義を行った縁で部局間協定を締結しました。翌年 11 月に約 3 週間、同大学外科の准教授が内視鏡外科手術の研修で本学を訪れた際にも「外国医師臨床習練許可証」を発行していただきました。同大学の学長とこの准教授が国立サマルカンド医科大学の学長と医学部長に転出したことをきっかけに国立サマルカンド医科大学の名誉教授の称号を 2020 年に授与されました。

## 9) おわりに

外科医として低侵襲手術の普及・教育に加え、がん領域の文科省、厚労省関係の事業、国際交流など、多岐にわたって仕事をさせていただきました。

何もないところから構築してやっと軌道に乗ってきたこれらのことが私の退官後にも絶えることなく続きさらに発展していくことを願っています。学生には海外で経験したことを自分の引き出しに入れて、行き詰った時のヒントとして役立ててもらいたいと願っています。国際的なマインドを持って地域に貢献する医師が一人でも多く育つことを望んでいます。

高知大学医学部の今後のさらなる発展のために私ができることは極力協力していきたいと思っています。



ブラジルで腹腔鏡下大腸がん手術のデモンストレーション

## 《リレー随筆》



## 思えば遠くまできたものです

病理学講座 教授 降幡 睦夫 (第5期生)

高知は真冬さえ太陽が輝く南国であり、一年を通して温暖な気候に恵まれています。四国においては東西に渡り遍く太平洋を臨む好位置にあり、よさこい節に歌われるように、正に南をうける。南風そよぐ室戸岬から前方を望みてはさえぎる物は何もなく、果てしない空と海が広がるのみです。北部に背負う四国山地は想像以上に険しくて、その他徳島・香川・愛媛の三県を隔てるためでしょうか、独立独歩の精神、自己を尊ぶ、いごっそう、といった高知独自の気風・風土を育んで来ました。本学においてもその精神は脈々と引き継がれており、医学部では、敬天愛人の信条に基づく教育姿勢を貫きながら、多様性を尊重し、グローバル社会で活躍貢献できる愛に満ちた医療人、さらには次世代医学・看護学を力強く開拓推進していく人材養成を目指しています。同時に、世界レベルの画期的な研究成果を目指して基礎研究・臨床研究を行うことで、人々の病氣克服と健康維持に貢献することを掲げています。

私は高知医科大学医学科5期生として入学し、入学当時には在學生数約500名で男子生徒が9割弱を占め、最上級学年の5年生(1期生)はクリクラ実習に入ったばかり。看護学科棟や病棟も含め現在の建物は後に併設されたものが多く、全体としてはたいそう殺風景なキャンパスで、当然敷地内外のコンビニや、まして携帯、SNSなどあろうはずも無く、テレビ局もNHK、RKCとテレビ高知のみ。高知市中心街へも遠く(今の東西幹線道路も無かった)、当初クラブ活動をしていなかった私の様な高知県外入学生にとって、キャンパス周囲に広がる水田から聞こえるウシガエルの大合唱に続く日没が、一日の終わりでありました。

そんな学生時代でしたが、卒業後は躊躇無く本学にとどまり、病理学講座にて医学教育・研究及び病理診断業務に携わって参りました。その間1998年には看護学科が併設され、2003年10月に高知大学と統合、2004年4月から現在の国立大学法人高知大学医学部となりました。これまで輩出した4,000人余の卒業生の中には、高知県の地域医療を支える医師はもとより、大学等で医学教育に携わりながら、先進的な医療を生み出して実施する医学教育・研究者、更には世界の様々な地域での健康問題に直面しながら医療活動を担う国際医療人となっております。病理学担当、そして医学部内の役職を通じて、多くの卒業生と接する機会を頂いたことは、私自身に取りまして掛け替えのない経験であり、大変誇らしく思います。退官後は一人の患者としてお世話になることもあろうかと期待致しつつ、立派な医療人として活躍なさる皆様方に再会できる近未来を楽しみにしております。

## 令和 6 年度高知大学医学部医学科同窓会総会



(前) 廣瀬同窓会会長を囲んで石井講師、前田幹事



仲良く懇談する諸先輩方々



総会懇親会集合写真

## 高知大学医学部同窓会岡山県支部 第4回同窓会（2024/6/29）のご報告

2024/6/29（土）19時～焼肉 南大門にて高知大学医学部同窓会岡山県支部 第4回同窓会を開催いたしました。27名の参加で、1期生から2024年3月に卒業したばかりの41期生まで、遠くは静岡県からと幅広い同窓生が集まりました。また、高知大学医学部同窓会からは同窓会理事 小林道也先生にお越しいただきました。小林先生は岡山県出身ということもあり、准会員として毎年ご参加くださるとい嬉しいご挨拶もいただきました。

高知大学医学部同窓会岡山県支部は2017年6月に発足し、コロナ禍の2020年から2023年までは懇親会の開催もできませんでしたが、5年ぶりに同窓会を開催することができました。5年間のうちに色々な出来事を経験された先生方も多くおられました。同窓会で集まり、学年や時代を超えた懇親の場になりました。

次回も高知大学医学部に関係する先生方は、岡山県以外からもご参集いただいても構いませんので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

高知大学医学部同窓会岡山県支部

支部長 宮下雄博（S59年卒、第1期生）



## 《事務局からのお知らせ》

### 会費納入のお願い

同窓会会費は終身会費で5万円です。未納の方は、下記口座への納入をお願いいたします。

#### 【郵便局からのお振込み】

口座番号:01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

#### 【他銀行からのお振込み】

店名 : 一六九店 預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874 高知大学医学部医学科同窓会

### ○広告協賛金のお願い

広告協賛金について次のとおりご案内をさせていただきますのでご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【広告の掲載】 : 同窓会会報 40号「やまもも」(令和7年6月発行予定)

【広告のサイズ】 : ①A4 1/4頁 ②A4 1/2頁 ③A4 1頁

【申込方法】 : 高知大学医学部医学科同窓会事務局「メール:[dosokai.j@kochiu.ac.jp](mailto:dosokai.j@kochiu.ac.jp)」  
にお申し込みください。改めて事務局よりご連絡申し上げます。

## 【医学科同窓会会員の皆さまへ】団体勤務医師賠償保険のご案内

高知大学医学部医学科同窓会では、勤務医師賠償責任保険を団体として損保ジャパンと契約しています。現在、約220名の加入者があり、保険料について団体割引15%(令和6年度)の適用を受けております。

●団体割引は、本団体契約の前年のご加入実績により決定しています。次年度以降、割引率に変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●この案内は勤務医師賠償責任保険の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、下記取扱代理店または引受保険会社営業店までご連絡ください。

### <ご参考>

#### 補償内容(保険金額)と保険料

契約型	医療上の事故		保険料
	対人1事故につき	対人1年間につき	
100型	10,000万円	30,000万円	43,206円
200型	20,000万円	60,000万円	54,791円
300型	30,000万円	90,000万円	66,300円



【取扱代理店】 株式会社はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町10番5号  
TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-4780-6362

メール : [harada-hokenkikaku@n1003905.insurance-agt.ne.jp](mailto:harada-hokenkikaku@n1003905.insurance-agt.ne.jp)

【引受保険会社】 損害保険ジャパン株式会社 高知支店高知支社

〒780-0870 高知市本町2-1-6

(承認番号 : SJ23-11222)

※勤務先や自宅などが変更となった場合は、同窓会事務局まで本用紙でご連絡をお願いいたします。

同窓会高知大学医学部医学科同窓会事務局 行

FAX：088-866-0065

メール：[dosokaij@kochi-u.ac.jp](mailto:dosokaij@kochi-u.ac.jp)

【勤務先や自宅などが変更となった場合は、本用紙でご連絡をお願いいたします。】

ご氏名	会員番号 S・H 年卒
勤務先名	
勤務先住所	〒  TEL
自宅住所	〒  TEL
その他連絡先（実家など）	〒  TEL
メールアドレス	
【ご意見等】	

令和7年2月下旬移転予定で入院患者の安全確保や、南海トラフ巨大地震等の大規模災害時の医療継続のため、免震構造の新病棟として新築し個室病室を増加するなど、患者さんのニーズやプライバシーに配慮した入院環境の向上を目指しております。

